

# 勉誠通信

Bensey Newsletter 第二十六号

2010.10.15

小論・研究余滴・随想



書物とデジタル化の  
幸せな結び付き

安形 麻理

子どもの成長における  
「異世代との関わり」

斎藤 嘉孝

なるほど幼児教育

福田 博子

振り返れば私がいる

立松 和平

―不思議の国への旅 (二)

漬物―くいものの語源と博物誌―

小林 祥次郎

小論・研究余滴・随想など本誌にお寄せ願います。

## 新刊・近刊ニュース

- ・ ネットワーク時代の 『情報管理と法』  
 図書館情報学
- ・ 図書館情報学の 『図書館・博物館・文書館の連携』  
 フロンティア10
- ・ 古今集注釈書 『古今集素伝懐中抄』  
 影印叢刊3
- ・ 立松和平 『冒険に駆り立てられて』  
 全小説9
- ・ 『なるほど幼児教育』
- ・ 『家庭における人間形成』
- ・ 『子どもを伸ばす世代間交流』
- ・ 『増補改訂 古代日本人と外国語』
- ・ 『続「訓読」論』
- ・ 『伴大納言絵巻』
- ・ 『律令制国家と古代宮都の形成』
- ・ 石川県立図書館蔵 『江吏部集』 『無題詩』  
 川口文庫善本影印叢書3

勉誠通信 バックナンバー

<http://www.bensey.co.jp/mm.html>

# 書物とデジタル化の幸せな結び付き

安形麻理

(慶應義塾大学文学部助教)

## 電車の中の読書

みなさんは電車の中で何をしていますか。読書、会話、居眠り、携帯電話の操作など、いろいろあるでしょう。電車内での乗客の行動については、これまでいくつかの調査が行われてきました。慶應義塾大学文学部の糸賀研究室による最新の二〇〇七年調査では、新聞や書籍など「何かを読んでいる人」の割合がこの三十年の間に徐々に低下し、携帯電話を操作する人の割合が最も高くなったことが明らかになっています。これだけを聞くと、いわゆる「読書離れ」の表れのようにですが、これには新聞の利用率が低下が大きく影響しています。実は、書籍を読んでいる人の割合は、この

三十年間ずっと一割前後を維持しているのです。また、携帯電話を操作している人の中には、マンガも含めた電子書籍を読んでいる人もいるかもしれません。

## 「電子書籍元年」

今年は何度目かの「電子書籍元年」として、電子書籍についての特集が紙面を賑わせています。昨年にはアメリカの電子書籍端末Kindleが日本でも使えるようになり、今年五月にはアップルのiPadが発売され、十二月にはシャープの多機能端末の発売も予定されています。さかのぼれば、数年前にケータイ小説が爆発的に流行し、二〇〇七年にはその書籍版がトーンハン

べによる文芸部門ベストセラーの一位から三位を占めたというニュースも記憶に新しいところです。

ハードばかりでなく、ソフト、つまり書籍のデジタルデータの充実も加速度を増しています。パソコンや電子書籍端末向けの電子書籍、青空文庫、新聞の電子版、ウェブサイト上の立ち読みコーナーなど、一度は利用したことがあるという方も多いのではないのでしょうか。

## 「グーグルブックス」

さらに、非常に大規模な書物のデジタル化も急激に進んでいます。たとえば、インターネット検索エンジンの最大手であるグーグル社による書籍の検索サービス「グーグルブックス」には、日本語書籍も含め七〇万冊以上のデータが登録されており、著作権保護期間が満了したものは画像PDFファイルを開覧・ダウンロードで

アクセス (<http://books.google.com/>)。同種の取り組みとして、英国図書館やYahoo!、カリフォルニア大学図書館などが参加するOpen Contents Allianceも、著作権保護期間が満了した書籍をデジタル化し、画像PDF・テキストデータ・電子書籍用などのさまざまな形式のデータを提供しています (<http://www.archive.org/>)。

国内では、二〇〇二年から、明治・大正期刊行書籍十五万冊強のデジタル画像が国立国会図書館の「近代デジタルライブラリー」として公開されています (<http://kindai.ndl.go.jp/>)。二〇〇九年には前年度の約一〇〇倍にあたるデジタル化のための補正予算(約二七億円)が計上され、約九〇万冊のデジタル化が進められています。

こうした大規模デジタル化は、日常的な娯楽のための読書にも、仕事や研究のための情報入手にも、大きな変化をもたらすでしょう。わたしも、日々その恩恵

にあずかっている者の一人です。

## 大規模デジタル化がすべて？

大規模デジタル化にとかく話題が集まっていますが、それだけで良いのでしょうか。グーグルブックスへの批判は、著作権問題を別にすると、情報アクセスの一極集中管理といった側面に集中しがちに思えます。けれども、書物とは何なのか、デジタル化が何の役に立つのかを考えると、そもそも全く異なるアプローチも必要になるはずですね。つまり、五〇〇年にわたる「活字文化」を形成してきた書物そのものを研究対象とするための、主として古い書物を対象とした少数精鋭の高精細デジタル化、そしてそれを活用した新たな研究手法の開発です。

そうした常日頃考えていることをベースに、このたび、勉強出版から刊行中のシリーズ「ネットワーク時代の図書館情報学」の一冊として、『デジ

タル書物学事始め グーテンベルク聖書とその周辺』を出版していただくこととなりました。

## 書物研究とデジタル化

活版印刷術の発明者が十五世紀半ばのグーテンベルクで、最初の本格的な活版印刷本がグーテンベルク聖書であるということはいうまでもありません。その発明の三大ポイントが、金属製の鋳型で同じ形の金属活字を大量に鋳造する技術、油性インク、そして印刷機の考案にあります。これによって、まったく同じ本を大量に印刷できるようになったわけですね。

ところが、高精細デジタル画像を応用した比較研究からは、グーテンベルク聖書の一冊一冊の本文には、実際には少しづつ細かな違いがあることがわかっています。さらに、プリンストン大学の二人の研究者は、高精細デジタル画像をコンピュータでクラスタ

メールマガジンの登録申し込み・取り消しはこちら

リングするという研究の結果、グリーンベルクの発明はこれまで信じられてきたものとは違うかもしれない、というセンセーショナルな仮説を発表しました。その仮説とは、彼は金属製の母型は使っておらず、「同一の活字」を大量に作ることはできなかったというものです。BBCのテレビ番組が作られるなど、この仮説は専門家だけではなく一般からの関心も集めており、今後の動きが注目されます。

### デジタル書物学

デジタル化というのと、とかく「紙の本」が消えてしまうのか、という暗い話になりがちです。けれども、書物研究という面から見ると、書物とデジタル技術という組み合わせの前には明るい展望が開けているのです。デジタル書物学という、この新しい研究領域が発展していくように願っています。



## ネットワーク時代の図書館情報学

### デジタル書物学事始め グーテンベルグ聖書とその周辺

安形麻理 著

四六判並製・定価二一〇〇円（税込）

デジタルによって広がる書誌学の可能性―書物研究という面から見ると、書物とデジタル技術という組み合わせの前には明るい展望が開けている。デジタル画像やコンピュータを活用した「デジタル書物学」の「現在（いま）」を紹介。

- 第1章 活版印刷術の誕生
- 第2章 解体・グーテンベルク聖書
- 第3章 書物研究とデジタル画像
- 第4章 デジタル画像を用いた校合手法
- 第5章 デジタル画像を用いたグーテンベルク聖書の校合
- 第6章 デジタル書物学の今後

【好評既刊】各四六判並製

### 情報管理と法 情報の利用と保護のバランス

新保史生 著・定価二一〇〇円（税込）

### メタデータの「現在」 情報組織化の新たな展開

谷口祥一 著・定価一七八五円（税込）

### 利用者志向のレファレンスサービス その原理と方法

小林麻実 著・定価二一〇〇円（税込）

### 図書館はコミュニティ創出の「場」 会員制ライブラリーの挑戦

齋藤泰則 著・定価二一〇〇円（税込）



## 子どもの成長における「異世代との関わり」

『子どもを伸ばす世代間交流』の刊行にあたって

### 齋藤嘉孝

（西武文理大学准教授）

### 子育てに「がんばっている」親たち

昨今の日本の親たちはとても「がんばっている」と思う。

いろいろな本や雑誌、インターネットなどで多くの情報が手に入る。「こういう関わりをしたほうがよい」とか、「こういう子育てをすれば子どもの成長にいい」とか、親としての「マニュアル」あるいは「成功の方程式」などでもいわんばかりの情報が氾濫している。

かつてのように近場の人間が、子育ての経験を伝えてくれない。あるいは自分の子育てを、ちよつと離れたところから見守ってくれない。ほとんど全てが自分で、間接的な情報を頼りに経験していくしかない。そういえば、小

さいころに下のきょうだいのお守りをした経験もないし、親戚の子どもたちのお守りをしたこともなかった……。

しかし世間はシビアである。子どもの問題が起これば、すぐに親のせいにしたがる。なにか子どもが事件を起こせば、マスコミはその家族状況をゴシップのように暴露する。また、学校で問題があれば、すぐに連絡がきて、「情報を共有したい」と、教師から「苦情」を受ける。

いわずと知れた少子化のなかで、一家あたりの子どもの数は少ない。親は、一人の子ども、あるいはせいぜい二人の子どもに、自らの子育ての知識やエネルギーを集中させる。そんな今日の環境のなかで、親た

ちは気楽な子育てなどできるはずがない。

……だが、ここで考えたい。子育てはそんなに「親」ばかりに責任のある行為だろうか。そして、子どもというのは、そんなに「がんばっている親」にだけ、育てられるべき存在だろうか。

### 今の若者たちをみて思う

私は大学の教員として、日々学生たちと関わっている。昨今の学生と接していると思うことはいろいろあるが、なかでも「成長の過程であまり年齢の違う人たちと接してこなかったのではなにか」と感じることもある。異世代との経験が、意外なほどに少ないように思う。大人といえば、せいぜい親と教師ぐらいとしか、日々接したことのない若者が多い。

今の子どもたちは、親と教師以外の大人たちとあまり日常的に関わりを持ってない環境に置かれているのではない

か。

これはおかしな話である。世の中には、それ以外の人たちがたくさんいる。いや、むしろそれ以外の人のほうが圧倒的に多い。しかし、子どもたちはそういう人たちと直接関わる機会に乏しい。昨今当たり前とされているが、こんな環境は人類の歴史でもめずらしい。これは健全な環境なのだろうか。

### データが語ること

ひとつ興味深いデータがある。自身の収集したものが、今の大学生たちにアンケート調査を実施した。結果を簡単にまとめてしまえば、こうだ。

——高年齢あるいは自分より年少の子どもたちと、小さいころから成長の過程で接触を持ってきた学生のほうが、現在の対人関係の形成・維持などにスムーズな傾向にある。

つまり、異世代の人たちと接してきている学生のほうが、人づきあいのスキルが、親にとっても、望ましくないはずだ。

詳しくは拙著で論じたいが、「世代間交流」という取組みがある。これは意識的に地域社会でつくりだしていくものである。

現在、日本の各地でその重要性が認識されてきており、実践がなされてきている。ぜひ「世代間交流」の取組みがもっと普及し、また公的に制度化され、親や子どものためになることを願っている。



にすぎれていた。

もちろん統計的な傾向にすぎず、例外的な法則でもない。全ての若者に当てはまるわけではない。しかし、読みとれるメッセージとして「親や教師、あるいは同級生とだけ接しているより、いろいろな世代のいろいろな人たちと関わったほうがよい」ことが示唆されたと思う。そのことは軽視できない。

### 親自身のためにも

親や教師は、いずれにしても教育者や指導者である。子どもにしてみれば、自分上から教えてくる存在である。特に親は、ことによっては、うつつやしい存在になりかねない。

また、同級生というのも、考えようによっては「息苦しい」存在である。同じような成長段階の存在として切磋琢磨しているライバルたちである。しかし、社会に存在しているのは、

教育指導者やライバルたちばかりではない。もっと楽に過ごせる人間関係がある。そういう意味で、異世代の人たちと関わる経験は大きな意味を持つ。

具体的には、祖父祖母などの高齢者かもしれないし、近所の大人かもしれない。あるいは、自分より小さな子どもたちかもしれない。現在の日本は、歴史上まれなほどに、そういった人たちとの関わりに欠けた子どもたちが育つてしまっている。

現在、子どもにとって、異世代との関わりをもっと意識的に増やす時期にきていると思う。

親としての「手抜き」は必要である。手抜きをすることは子どものためにもなりうる。他の人に、もっと子育てを任せてよい。

そして親以外の大人たちも、子育てにもっと積極的に手を貸し、口を出すべきだろう。「他人様の子どもには立ち入るべきではない」そんな昨今の日

### 家庭教育叢書 全三巻

## 子どもを伸ばす世代間交流

斎藤嘉孝 著

四六判並製・定価一八九〇円（税込）

子育てというのは、親だけのものではない。子どもを異世代とすぐさせよう。子どもたちは、いろいろな人との関係のなかで、人づきあいのしかたを身につけていく。さまざまな世代と交流することは、

親の負担を減らすことにもつながるだけでなく、子どもの成長と自立にきわめて有益である。

## なるほど幼児教育

福田博子 著

四六判並製・定価一八九〇円（税込）

幼児は単に大人を縮小したものではなく、大人とは本質的に異なったものである。子どもは人格を持った存在であり、尊重されなくてはならない。しかし、私達はこのことを忘れ、子どもを親の思い通りにしようとしているのではないだろうか？

豊富なデータを用い、「発達」「遊び」「保育園・幼稚園」などのわかりやすい観点から、幼児教育の基本を考える。

## 家庭における人間形成

水野建雄 著

四六判並製・定価一八九〇円（税込）

家庭教育の目的は子ども的人格の自立と社会的能力の育成である。家庭教育の二本柱は親の「愛情」と「責任」。これまでの育児論をふまえながら、親子関係の基本に立ちかえり、人間の生き方としての教育を説く。

子どもを  
あらゆる世代と  
すぐさせよう



# なるほど幼児教育

福田博子

(元八洲学園大学教授)

先哲の教え―子どもを知ること・

愛すること・子どもを遊ばせること―

ルソーが「人は子どもというものを知らない、子どもについてまちがった観念を持っている……」(『エミール』)と言ったように、現在も大人は子どもを

本当に理解していないのではないだろうか。だから子どもをよく知ることが大切ではないだろうか。子どもの心身の発達過程、身体の発達、言語の発達、

ものの考え方、世界観等を知っていれば、子どもの発達段階で到底できないことは要求しないだろう。例えば新生

児の時期に排泄の訓練をしたり、生後数カ月で歩行の練習をしたりするよう

な愚かなことはしないであろう。先哲の主張は時代が異なっても共通

音に「日本は子どもの天国だ。親は絶対にはいえないが、決して子どもを叩かない。」と言った。外国では、赤

ん坊の時から自立を求め、日本のように添い寝はしないし、子どもを真ん

中にして両親が両側に寝るといふ川の水で寝ることもしない。しかし、日本

にも短所はあるわけで、ある外国人に言わせると、日本の公園は芝生が少な

くて、子どもが転ぶと怪我をしやすし、ベビーカーを持って駅の階段を降

りる時、誰も手伝ってくれないというのである。日本の社会は子育て家族に

対して優しいとはいえないのかもしれない。本書にあるようにドイツでは家庭のしつけが厳しいこと、子どもが悪

いことをすると、他人が注意を与えること、他人に親切にすること、物を大切にすること等、学ぶべきことが多い。

親になってからでは遅すぎる

昔からの私の持論であるが、小学校

なものがあるように思う。子どもを愛す

ることの大切さを主張していることで共通している。愛するということは親の思

い通りにすることではなく、子どもの人格を尊重することである。

また、子どもにとって遊びは大人の仕事と同じである。子どもは遊びながら成長する。子どもの生活すべてが遊

びである。遊びを軽視してはいけない。戸外で全身を動かし、汗を流しながら遊ぶことが子どもの全面的発達を促進するのである。

保育園や幼稚園に子どもを

一任してはいけない

『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』には保育園や幼稚園の保育のねらいや

の高学年頃からある教科、例えば家庭科の中で、育児法というような単元で

男女必須で、子どもの発達段階と対応(家庭のしつけ―褒め方・叱り方等も含めて)

というような内容を学習させ、実習として近隣の保育園・幼稚園で乳幼児の

世話をさせたり遊んだりさせてはどうであろうか。少子化の時代で、きょう

だいが少なく、異年齢の子どもと遊ぶことがあまりないので、いい機会であると思う。それによって相手を思いや

る気持ちがあるのではないか。親にならずつと前に、こんな体験学習をさせることを主張したい。

補足

幼稚園、保育所等のうち、教育・保育を一体的に提供し、地域における子育て支援を実施する施設を認定する認定子ども園制度が平成十八年から開始された。本書を執筆していた時より、件数が増加したので、訂正しておく。

内容や保育士・幼稚園教諭の指導上の留意事項等が掲載されている。本来は保育士や幼稚園教諭になるための養成

期間中に学習すべきものであるが、私

が主張したいことは、子どもを保育園・幼稚園に預けている人は全員これを読んで理解しておくべきであるということである。そうすれば、自分の子ども

が通っている園の様子も理解できるであろうし、子どもを保育園・幼稚園に一任することはしないであろう。倉橋

惣三がいみじくも言ったように家庭と保育園・幼稚園が子どもを挟んで車の

両輪のように絶えず連携して子どもに関わっていくことが大切である。このことは保育園・幼稚園に限らず、小学校・中学校・高等学校においても言えるのではないだろうか。

日本の長所を持続させ、

外国の長所を導入する

明治時代、来日した外国人は異口同

全件数 五三二

幼保連携型 二四一

幼稚園型 一八〇

保育所型 八十六

地方裁量型 二十五

平成二十二年四月一日現在(『文部科学白書

平成二十二年』文部科学省六月三〇日発行)

また、平成二十一年の合計特殊出生

率は一・三七。

次の課題

さらなる先哲の教育論の究明

本書に掲げた先哲の他の作品における子ども観や教育論、また本書に掲げ

なかつた他の先哲の教育論等を究明することが次の課題である。例えば、ド

イツの文豪ゲーテは自分の幼少期を回想し、父親から相当厳しい授業日程を課され、重荷と感じたことがしばしば

あった、このことは既に決定的な方向をとっていた自己の内面的な発展を阻止し、歪曲したと述べている。厳格一

## インターネットで学ぶ 家庭教育学

八洲学園大学家庭教育課程編  
A4判並製・定価九四五円(税込)  
子どもを一人前の自立した人格に育てるために、  
親がするべきこと。  
いまこそ、本当たたいせつな「家庭教育」を考える。  
人間は家族なしでは生きていけない/家庭と人間形成  
親の役割と責任を考える/少子化時代の家庭教育と学校教育  
仏教説話にみる親子のあり方/親子の情愛物語/  
「生活リズム」改善のために知っておきたい教育心理学  
人間としてのトータルな力を育む宗教教育  
文学による家庭教育/映画の中の家庭  
家庭教育の考え方/循環型社会に対応する幸福の追求  
ネットでいま必要なことを学ぶ/母に愛されない子  
子どもはこうして生き方を学ぶ



## 新教育事典

遠藤克弥 監修・菊変上製・定価七二四〇円(税込)

## 親と子の愛と憎しみと

歴史と文学の会 編・四六判上製・定価二五二〇円(税込)

## 教育の挑戦

多文化化・国際化  
遠藤克弥 著・四六判並製・定価一四七〇円(税込)

## 教育学における優生思想の展開

藤川信夫 編・A5判上製・定価一四七〇〇円(税込)

## GYROS 13 今、教育の原点を問う

諏訪春雄 責任編集・A5判上製・定価二六二五円(税込)

点張りの教育方針は子どもに反発感情を引き起こし、逆効果である。しかし、これに対して母親の方は勉強の後で褒美を与え、それが教育効果を上げたという。(これはゲートだったから効果上がったのかも知らない)。また、子どもの好奇心の芽を摘み取ってはいけないことも掲げている。例えば、子どもが玩具を壊してしまう場合であるが、玩具を

壊すのは子どもの残虐性の表れではなく、玩具の構造やその内部の様子を知りたいという好奇心や探究心の表われであり、このしぐさを決して悪くしてはいけない。それから、スウェーデンの女性の思想家ケイは子どもへの体罰の禁止を唱えたばかりでなく、何よりもまず必要なことは、家庭の仕事または職務を与

えてやること、毎日慣例として適当な仕事を与えてやることであると主張している。子どもに家事を分担させることによって、子どもの仕事への義務感・充実感を、家族への帰属意識を味わわせることが肝要である。国内外を問わずその他の哲人の教育論を、諸々の書物によって明らかにしたい。



## 振り返れば私がいる——不思議の国への旅 (二)

### 立松和平

(作家)

やがて車に乗せてくれた男が一人戻ってきて、気の毒そうに私にいう。

「働き手はほしいんだけど、あんなことがわからんさあ。東京の学生だといつたんだけど、それでもわからんというのさあ」

それからも二つほど畑をまわつたのだが、結果は同じだった。当時の沖繩の農民と東京の大学生と、会話をすると回路が結ばなかったたのである。車を運転して大きな道路に戻りながら、その人はいった。

「人がしょつ中出入りする場所なら、相手が誰かなど考えんよ。那覇の波之上にいくといいよ。人の素性など調べないさあ」

その時私は、波之上がどんなところかまったく知らなかった。懐具合が窮していたので、一日でも早くとにかく働かねばならなかった。那覇に戻った私は、とにかく波之上というところに向かったのだ。目標は波之上神宮である。今は国道五十八号線となった当時の一号線から、波之上神宮に向かって歩いていくと、西武門公番がある。その辻一つ向こうから、派手なネオンサインが林立する波之上の歓楽街がはじまる。まるでラスベガスみたいだなと、いったこともないのにその時もあった。

ここから波之上という最初の角の地味な構えの店に、「ピアホール清水港」と看板が出ていた。ピアホールなら平穩無事すぎるかなと思いつつ、ドアを押して中にはいった。「すみませーん。働きたいんですが、私ほだだっ広い間に向かつて叫んだ。おうと声がして、小太りの目のくりくりした男が出てきた。男はその目を素早く動かして私を一瞥した。「よし、一日一ドル。今晚からだ。三食はあげるし、ここで寝られるからいいだろう」男は問答無用という感じでいった。一ドルは当時三百六十円である。いくらなんでもそれは安いと思つたが、私は切羽詰まっていたのですぐに受け入れた。「よろしく願います」その晩から私は働くことになったのだ。店の客用のシートを四つならべれば、ダブルベッドの大きさになる。私は寝袋を持ってきているから、とりあえずそれで寝床は確保されたのだ。私を

雇ってくれたのはマスターであった。床の奥に部屋が二つあり、大きいほうの部屋にはマスター夫婦が、小さいほうの部屋にはチーフと役目で呼ばれる若い夫婦が暮らしていた。ママとチーフ夫人が交代で食事をつくってくれるから、私もついでに食べればよいだろうということであった。

その晩のうちにわかったのだが、「ピアホール清水港」はアメリカ兵を相手にする無許可のナイトクラブであった。午後十一時頃になると、私はテールやシートをどかして床の掃き掃除をはじめた。ほとんど同時に、カウソターの内側の床に置いてある土壺の中のまったく同じウイスキーを、ジョニー・ウオーカー赤、黒、ホワイトホースなどの壘に詰めかえていく。その壘は奥の棚にならべる。

午前〇時が仕事のはじまりだ。アメリカ軍が許可をした店でなければ、アメリカ軍兵士ははいつてはならないといた。銀盆の底を雑巾でびちよびちよに濡らしておき、飲み物を運んでいつたついでに、その盆をテーブルの上に置く。アメリカ人の酒の飲み方の一つのタイプは、百ドル分を飲むと決めたおき、百ドル札をテーブルの上に置いておき、ウエイターが注文した分の金額だけそこから持つていく。釣りはその上に重ねておくのだ。その札を狙い、上に濡れた盆を重ねて置き、貼りつけてひよいと持つていってしまう。

仕事はウエイターの他に、パートナーもあつた。ソフトドリンクにウイスキーをいれるだけだから、誰にでもできる。その他に、外の見張り役もあつた。店が最も恐ろしいのは琉球警察とミリタリーポリス(MP)で、たえず二人連れで巡回している。MPの場合には、人種差別の問題があるので必ず白人と黒人とで組む。彼らの姿が見えると、植え込みの陰に隠してあるスイッチを切る。店内ではジュークボックス

されていた。許可を得た証拠として、入口に「A」と書いた看板を掲げておく。これをAサインバーという。しかし、Aサインバーは午前〇時になると営業をやめなければならない。ペトナムのジャングルで生死を懸けた戦闘をし、わずかな日数帰休した若い兵士が、穏やかな気持ちのうちに帰って眠れといわれても、兵舎に帰るだろうか。行き場のない兵士たちを受け止めたのが、無許可のナイトクラブなのである。「ピアホール清水港」は正面入口の暗い色のドアに錠をほどこして閉まっていて、窓にはベニヤ板が張ってあり光も音も外に洩れないようになっている。

裏口のドアを、勤務をすませたAサインバーのホステスが客の兵士を連れ、こんこんとノックをする。ドアには小窓がついていて、内側の板を持ち上げると誰がきたのか確かめられるようになっていて。客だとわかればドア

が消え、ウエイターが静かにするよう小声でいつてまわる。

私はごく一般的な大学生であつたが、不思議の国に迷い込んだようであつた。アメリカ兵といつても私と同じ世代の青年で、本国に帰れば工具や農民や学生であつたのだろう。一方の私は、戦争に狩り出されて苦しむこともなく、自由自在に楽しい旅をしている。何をやつてもただひたすら自分自身のためだつた。一見歓楽に興じているようだが、兵士たちが最も苦しんでいた。彼らを相手に商売をする沖繩の男や女たちは、なんとも頼もしい生き方をしている。

思いもかけずもう一つの世界を覗いて見たような楽しい旅であつた。一カ月ほど働いて約束通りの賃金を私はもらい、ママからは銭別にジョニ黒一壘をもらつた。軍の売店PXで知人に買ってきてもらったもので、個人の消費に使うため安く販売するのであるか

の施錠を解き、店内にいれる。店内は真暗であつた。私は主にウエイターをやつた。兵士たちが注文するのは、ビールかウイスキーコークかウイスキーセブんだ。ウイスキーをコカコーラかセブンアップで割つたもので、相当酔つた上で店にくるから、ウイスキーの味などわからないというわけだつた。時々沖繩の人がカウソターなどに坐り、ジョニ黒のストレートを注文したりする。ウエイターがこの注文を受けた時には、バーテンのところについて小声で囁く。

「ほ、ん、も、の」

オリオンビールが一本一ドル、ウイスキーセブんとウイスキーコークが一杯五十セントだつた。暗くて金を払つたのかどうかわからなくなるので、グラスを掴んだ客の手首を掴んで金を払ってくれるまでは放さないこともあつた。

危険なことをするウエイター仲間も

ら、買う時には必ず蓋を開けなければならぬ。中身は間違はなく本物である、ママにはいわれていた。ジョニ黒はあまりに高級品で、自分で飲むものではなかつた。だが売るにしても、蓋が開いていたのでは買ひ手は信用しないだろう。それが私の最大の問題であつた。売ることができず、結局友人たちと飲んだ。あまりにうまくて、涙がでた。

東京の下宿に帰ると、この体験をどうにかして表現したいものだと思つた。言葉こそこの身についたもので、肉体と同じだ。言葉を使つた表現として、小説を書きたいと思つた。それにはまず原稿用紙がなければならぬと思ひ、近所の文房具屋で一番安いものを買つてきた。コクヨの緑色の表紙のB5版で、縦書きのものを横書きにして使つた。集中して一気に百七十枚書き、「とほうにくれて」とタイトルを付けた。その後ある事情ができて

メールマガジンの登録申し込み・取り消しは[www.kanokan.com](http://www.kanokan.com)

新宿区四谷三丁目「早稲田文学」編集室に持っていった。とても掲載になるとは思えず、深い井戸の中にほうり込んできたような感じであった。私は二十一歳であった。

結果としてこの作品は「早稲田文学」一九七〇年二月号に載った。私にとっではじめて活字になった作品で、原稿料一枚二百円も生まれてはじめてもらった。この原稿料は留年をするための学資になった。

書いてから九年後に出版された単行本では「途方にくれて」と改め、標題作とした。

〔立松和平全小説 第二巻より抜粋・つづ〕



## 第一期 完結

# 立松和平全小説 9 冒険に駆り立てられて

立松和平 著

四六判上製・定価三九九〇円(税込)

「砂漠と戯れ、死を掌の中で弄んでいたかった」

ボクシング、パリ―ダカール・ラリー、肉体労働……。

言葉Ⅱ小説を離れた肉体の現場で獲得した「生のリズム」を創作の現場に還元することで生まれた長篇群。

ボクシングに賭ける青春を描いた『砂の戦記』『雨の東京に死す』に過酷なラリーの体験をもとに描かれた『ダカールへ』を併せる。

観念だけでなく、身体でも思考する作家であった立松和平の冒険の日々。

## 立松和平全小説 全三十巻

作家活動の核心である全小説七十三作品を集成。

はじめて書かれた小説「溜息まじりの死者」、文壇デビュー作「途方にくれて」など、最初期の作品を収録。

つねに時代とともに歩み、真摯な視線で現代を見つめ続ける立松文学の原形質がここにある。

- |           |        |       |            |
|-----------|--------|-------|------------|
| 【第一期 全9巻】 | 第5巻    | 旅に棲んで |            |
| 第1巻       | 青春の輝き  | 第6巻   | 戦後のはじまり    |
| 第2巻       | 哀いと彷徨  | 第7巻   | 昭和という時代    |
| 第3巻       | 異議ありの声 | 第8巻   | 歴史へのまなざし   |
| 第4巻       | 闘いの果て  | 第9巻   | 冒険に駆り立てられて |

※詳細のパンフレットがございます。  
ご購入用の方は、小社までお問い合わせください。



# 漬物—くいものの語源と博物誌—

## 小林祥次郎

### 〇香の物

香の物の語源について、いま広く知られているのは、香道でいくつも香を聞くと匂いが分からなくなる、その時に大根や茄子の塩漬けを嗅ぐと治るので香の物と言うとするものだ。山本北山(二七五—一八二二)の『孝経楼漫筆』(二)や畑維龍『四方の硯』(雪)がこの説だ。著者不明の『関秘録』(七)に、糝糞(糠味噌)は人の鼻を開くものなので、香の会席にまず糝糞を出し、次に香を出した古流もあるが、今は絶えて名だけが残って香の物と言う、とあるのも、これに近い。

しゃれた話で面白いが、香道を知らないわたくしには、正しいかどうか分からない。

伊勢貞丈(二七一—一八四)『貞丈雑記』(六)は、香の物は本来は味噌漬

けで、味噌は匂いの高いものなので、古くは香と言った、それで香の物と言うのだ、とする。この説は元禄十五年

(二七〇二)に出た永井如瓶子『庭訓往来諺解大成』(夏)に「上づかたには味噌を…香とものたまふとなり。未曾(みそ)に漬けたるを香の物と云ふなり」とあるのが最古か。黒川春村『碩鼠漫筆』1806(一一)も同じ。大槻文彦『言

海』に、「古へ味噌ヲ香トイヒ、味噌漬ノ名ヨリ起ル」とするのもこれに同じで、上田万年・松井簡治『大日本国語辞典』などもこの説だ。『日本国語大辞典』で、「こうのもの」に「香」は味噌①古くは味噌漬、後には糠、塩、

粕などに漬けた野菜類をいう。」としているのもこの説だろう。これが素直なのではないか。味噌を香と言うのは、『日葡辞書』に、「カウ ミソに同じ。これは婦人語である。」とある。

菊岡沾涼『本朝世事談綺』1735(一)は、香の漬干から出た、薫物の中へ薄くそいだ鹿木を漬けて浸して香気を移して焚くのを漬干と言う、これにもとづいて、瓜・茄子・大根などの野菜を糟粕(かす)に入れて好味を移して茶菓子に用いたのである、とする。

多田南嶺(一六九八—一七五〇)『南嶺遺稿』1756(四)は、大根で口中の悪気を取るので香の物と言う、とする。

喜多村信節『瓦礫雑考』1818(二)は、漬けた蔬菜のかぐわしいのを香の物と言う、とする。

香と関わりのないのは、松永貞徳(二五七—一六五三)『和句解』は、糠(音カウ)に漬けるからカウの物か、とし、黒川春村『碩鼠漫筆』(一一)1859?は、

メーラムガジンの登録申し込み・取り消しは[japan.ia.net](http://japan.ia.net)

羹の音で香は借り字だろう、とし、笠亭仙果『於呂加於比』1893(下)にも、友人深川元備の説ではカウは羹の音で香は当て字だろうという説をあげ、別に自説として香々が良いとする、とするものくらいか。

### ○沢庵

沢庵漬が、幕府の命によって寛永十五年(二六三八)に江戸品川の東海寺を開いた、京都大徳寺出身の禅僧の沢庵宗彭にちなむことは疑う余地がない。

ただし、どうちなむのかは諸説がある。①沢庵のいた大徳寺で初めて造った(人見必大『本朝食鑑』二)、②沢庵が漬けはじめた(菊園沾涼『本朝世事談綺』一。越谷吾山『物類称呼』もこの説で、貯漬とする説は採らないとする)、③墓標(つまり墓石)は一個の丸い石だけで、この物がその制に似ているので名付けた(横島昭武『書言字考節用集』服食)、④墓

食ると臭味があるから、二三十分水へ泳がして、水囊で上げたやつを濡れた布中で堅くしぼって、醤油をかけて、七色かなんかがありゃア、これへかけの……、食ってみや、ちよいと乙なもんだぜ(円生全集・第六巻)

古漬を刻んで水によくさらして塩出しをして絞り、酒・醤油などをかけたのを「かくや」と言う。山東京伝の『通言絵巻』178に、「古茄子に守口(大根の一種)のかくや」ごあるなど、江戸中期から見える。

語源については、①徳川家康に仕えた料理人の岩下寛弥が家康に献じたところ気に入られ、寛弥と呼べと言われたから(小山田与清『松屋筆記』八四)とも、②高野山の隔夜堂を守っていた歯の悪い二人の老僧のために刻んだから(柳亭種彦『柳亭記』上)とも言う。



石が大根の香の物に似ているから(『橋庵漫筆』二二)、など。『書言字考節用集』の説は分かりにくいですが、墓石が重石、いわゆる沢庵石に似ているというのであれば、てるおか・やすたか『すらんぐ』と同じで、わたくしもこれに従いたい。

### ○福神漬

明治十年ころに、東京上野池の端(東京都台東区)の酒悦の十五代目野口清右衛門が、それまでは塩漬けしかなかった漬物に醤油・味噌を使い、上野近郊でとれた大根・茄子・蕪・瓜・紫蘇・蓮根。なた豆の七種を漬けたのが始まりで、不忍池に祭る弁財天にちなんで七福神に見立てて福神漬と名付けた。

名付けたのは作家の梅亭金鷲(文政四二〇)―明治二六)と言う。広まったのは、日清・日露の戦争に、携帯食として用いたことによる(酒悦のホームページによる)。

河東碧梧桐の『三千里』の明治四十年四月十日の条に、「福神漬で昼飯をすまして愈々山道にとりつく」とある。明治末には福神漬は広く行われていて、しかも安直なものとなっていた。カレーライスに福神漬を添えるのは、明治三四、五年ころ、日本郵船のヨーロッパ航路の船の食堂で、インド料理の薬味のチャツネにヒントを得て、一等船客のみに福神漬を添えた(二、三等船客は沢庵漬という)のに始まるという(酒悦のホームページ)。

東京都荒川区西日暮里の浄光寺に、福神漬の発明を顕彰する石碑がある。

### ○かくや

落語「酢豆腐」に、次の一節がある。 糠味噌イ手を突っ込んで掻き廻すと、古漬でえやつが出てくる。あいつを、よく切れる薄刃で寛弥に切ったんだ。生姜でも刻み込んで、すぐ

### 一〇月刊行予定

#### 増補改訂 古代日本人と外国語

東アジア異文化交流の言語世界

湯沢質幸 著・四六判上製・定価二九四〇円(税込)

#### 続「訓読」論 東アジア漢文世界の形成

中村春作・市來津由彦・田尻祐一郎・前田勉 編  
A5判上製・定価六三〇〇円(税込)

#### 伴大納言絵巻 冷泉為恭 復元模写

中野幸一 編・菊変形判・定価八四〇〇円(税込)

#### 方法としての仏教文化史

ヒト・モノ・イメージの歴史学  
湯沢質幸 著・A5判上製・予価二二六〇〇円(税込)

#### 律令制国家と古代宮都の形成

石川千恵子 著・A5判上製・定価二〇二九〇円(税込)

#### 石川県立図書館蔵川口文庫善本影印叢書 3

#### 『江吏部集』 『無題詩』

柳澤良一 編・A5判上製・定価二二六〇〇円(税込)

#### 国民の歴史認識のために

日中歴史共同研究〈近現代史〉をどう読むか

笠原十九司 編・A5判上製・予価二二六二五円(税込)

◆◆ Web ページのご案内 ◆◆ <http://www.bensey.co.jp/>

近刊を含む書籍の内容紹介から、新刊・既刊書籍のご購入、最新ニュース・書評掲載情報など。

◆◆ ご注文方法 ◆◆

- ① web ページによるご注文 <http://www.bensey.co.jp/howtobuy.html>
- ② 電話・FAX によるご注文 電話：03-5215-9021 FAX：03-5215-9025

◆◆ お支払い方法 ◆◆

銀行振込・郵便振替・代金引換払\*・クレジットカード\*\*等がご利用いただけます。  
(いずれの場合も、送料が別途 300 円かかります)

① 銀行振込の場合

三菱東京 UFJ 銀行麹町支店普通 3848245 ベンセイシュッパン(カ)

② 郵便振替の場合

00120-3-41856 勉誠出版株式会社

\* 代金引換払の場合、別途代引手数料として 315 円かかります。  
(ご注文が 3,000 円未満の場合のみ)

\*\* クレジットカードのご利用は、当社サイトからのご注文に限ります。

投稿募集

「勉誠通信」へのご寄稿を募集いたしております。  
現在のご研究内容の紹介や、ご興味をもたれていることなど、ご自由にお書きいただければと存じます。

◆ 執筆分量・誌面二頁(一五〇〇字程度)ないし三頁(二三〇〇字程度)  
写真などが入る場合は、文字数をそのぶん減らしてください。

四〇〇字を目安に、適当な小見出しをお付けください。

◆ 入稿形式・テキスト形式(ワード、一太郎形式も可)

◆ 謝礼・ご執筆誌面一頁につき一〇〇〇円分のポイントをお渡しいたします。  
ポイントとは、小社の書籍を直販にてご購入いただく際にご利用いただけます。

◆ お問合せおよび送付先・[mninfo@bensey.co.jp](mailto:mninfo@bensey.co.jp)  
メールアドレスに「勉誠通信用原稿」と明記してください。

編集後記

一〇月一六日(土)、一七日(日)、札幌の藤女子大学にて行われた第五八回日本図書館情報学会に参加し、展示販売を行いました。

遠方での開催にも関わらず、多くの先生方が集い非常に活気を感じました。展示した書籍の販売に忙しく、研究発表のいくつかは聴き逃してしまいましたが、初日最初から二日目最後のシンポジウムまで関心深く面白い発表ばかりでした。特に印象に残っているのは、『有害図書データベースの試作と有害図書の分析』と題する発表です。

性や暴力の描写、犯罪や自殺を教唆する可能性のある出版物を、「有害図書」とするのですが、まず規制そのものの意義について様々な考え方(表現の自由との対立など)があることは言うまでもありません。

また、規制の実行・徹底が現実的には困難なことから、有効に機能していないようです。そのためか、これまで規制の運用実態について明らかにした研究がないとのこと、この発表・研究の意義についても疑問視する質問さえありました。また、質問全体を通して非常に考えさせられる内容でした。

また、最後に行われたシンポジウムのテーマは「図書館・博物館・文書館の連携をめぐる現状と課題」でした。この発表を目当てに集まった方が多数見受けられましたが、小社からも関連書籍を刊行しております。ぜひ一読ください。(清井)